元町地車大屋根「鬼熊」復元新調

令和六年度地域文化財総合活用推進事業の採択により泉大津市では元町地車と板原地車の二町が採択された。

元町地車は、上地車の顔である「鬼熊」の経年による破損等があり大屋根前後の「鬼熊」と「金綱」の復元新調が、今回の主たる目的である。

まずは「元町」と「元町地車」について触れておく。

元町は、木小中町と本町が統合した町である。北に上市、南に西之町の間にある濱街道に隣接する町であり、今日の行政上の本町、神明町、東港町が属する町である。

大正四年（一九一五）の田中町と上之町のカチアイから生じた大喧嘩の事後処理として集められた町名の中に本町と木小中町がある。この二町の町名は現在の元町と重なり、前記大正四年以降は祭り自体が一時衰退したようであり、本町地車は「堺住吉大佐」（堺市の大工）に下取りに出されている。

三年の空白を余儀なくされ、大正八年頃から次第に地車祭りの復活の兆しが現われ、宮本町、上市、木小中町、出屋敷町、西之町の各地車が前記堺住吉大佐により修復作業が行われている。そして、大正九年に先代西之町が大佐により先代地車が新調されている。

昭和四年の時点で元町は存在していて、同年の「第五回青年団陸上競技大会」で元町が優勝した」（大津町志）とあり、大正四年（一九一五）大津村から大津町になり、行政区域の名称として「区」がつくられ「元町区」ができ、区長が推薦されている。しかし、住民表示は、下條大津〇〇番地であった。恐らく、初代元町地車（写真一）新調は、この行政区域を大きくするという流れに乗って新調されたと考えられる。

以前より大津町の地車は、当時のブランドであった「堺住吉大佐」に発注することが常であったが、初代元町地車は、木下賢治師、松本幸規師、中山慶春師、川原和夫師らが手掛ける。

写真一

写真二

初代地車を手掛けた川原啓秀師の孫である川原和夫師に鬼熊を依頼して初代が手掛けた鬼熊を富山県南砺市井波町の川原師工房へ持ち込んでの作事となり、和夫師により描かれた下絵（写真三）が残されている。昭和六十年十二月に丸丸心斎橋店にて「完成した「鬼熊」」（写真四）一丁が「川原和夫木彫展」に展示されました。

写真三

翌六十一年九月二十八日に入魂式を迎え二代目地車が完成する。

その後、平成十一年に初めての修復が行われ、大屋根根板、虹梁が、木下賢治師、下上師により取替えられ、平成二十年には二度目の修復が行われている。

台木「波」が瀧川千春師により馬乗り「馬」の彫物と正面土呂幕「栗津合戦」巴御前の男姿（写真五）の彫り替えを同町の堀健二師が作事し、竹の節「阿吽力神」を山本仲伸師が手掛ける。

平成二十六年の三度目の修復では、大脇、脇障子、見送り「後藤又兵衛」、小屋根桁隠、小屋根車板、小屋根虹梁、摺出鼻、旗差し、旗台を山本仲伸師により彫り替えられている。

そして、令和六年の今回の修復では、大屋根鬼熊二丁が同町の堀健二師により初代の物に復元すべく作事することになるのである。

地車は、令和六年四月七日に株式会社 大下工務店により引き取られ、四月十九日に堀師により材料が工務店より工房へ持ち込まれます。

写真四

写真三

「堺住吉大佐」に発注が、初代元町地車は、木下賢治師、松本幸規師、中山慶春師、川原和夫師らが手掛ける。

初代地車を手掛けた川原啓秀師の孫である川原和夫師に鬼熊を依頼して初代が手掛けた鬼熊を富山県南砺市井波町の川原師工房へ持ち込んでの作事となり、和夫師により描かれた下絵（写真三）が残されている。昭和六十年十二月に丸丸心斎橋店にて「完成した「鬼熊」」（写真四）一丁が「川原和夫木彫展」に展示されました。

翌六十一年九月二十八日に入魂式を迎え二代目地車が完成する。

その後、平成十一年に初めての修復が行われ、大屋根根板、虹梁が、木下賢治師、下上師により取替えられ、平成二十年には二度目の修復が行われている。

台木「波」が瀧川千春師により馬乗り「馬」の彫物と正面土呂幕「栗津合戦」巴御前の男姿（写真五）の彫り替えを同町の堀健二師が作事し、竹の節「阿吽力神」を山本仲伸師が手掛ける。

平成二十六年の三度目の修復では、大脇、脇障子、見送り「後藤又兵衛」、小屋根桁隠、小屋根車板、小屋根虹梁、摺出鼻、旗差し、旗台を山本仲伸師により彫り替えられている。

そして、令和六年の今回の修復では、大屋根鬼熊二丁が同町の堀健二師により初代の物に復元すべく作事することになるのである。

地車は、令和六年四月七日に株式会社 大下工務店により引き取られ、四月十九日に堀師により材料が工務店より工房へ持ち込まれます。

二代目となる元町地車は、大工棟梁天野藤壱師、彫刻は、木下賢治師、松本幸規師、十場裕次郎師、中山慶春師、川原和夫師らが手掛ける。

初代地車を手掛けた川原啓秀師の孫である川原和夫師に鬼熊を依頼して初代が手掛けた鬼熊を富山県南砺市井波町の川原師工房へ持ち込んでの作事となり、和夫師により描かれた下絵（写真三）が残されている。昭和六十年十二月に丸丸心斎橋店にて「完成した「鬼熊」」（写真四）一丁が「川原和夫木彫展」に展示されました。

翌六十一年九月二十八日に入魂式を迎え二代目地車が完成する。

その後、平成十一年に初めての修復が行われ、大屋根根板、虹梁が、木下賢治師、下上師により取替えられ、平成二十年には二度目の修復が行われている。

台木「波」が瀧川千春師により馬乗り「馬」の彫物と正面土呂幕「栗津合戦」巴御前の男姿（写真五）の彫り替えを同町の堀健二師が作事し、竹の節「阿吽力神」を山本仲伸師が手掛ける。

平成二十六年の三度目の修復では、大脇、脇障子、見送り「後藤又兵衛」、小屋根桁隠、小屋根車板、小屋根虹梁、摺出鼻、旗差し、旗台を山本仲伸師により彫り替えられている。

そして、令和六年の今回の修復では、大屋根鬼熊二丁が同町の堀健二師により初代の物に復元すべく作事することになるのである。

地車は、令和六年四月七日に株式会社 大下工務店により引き取られ、四月十九日に堀師により材料が工務店より工房へ持ち込まれ

写真二

写真三

写真四

令和六年度地域文化財総合活用推進事業の採択により泉大津市では元町地車と板原地車の二町が採択された。

元町地車は、上地車の顔である「鬼熊」の経年による破損等があり大屋根前後の「鬼熊」と「金綱」の復元新調が、今回の主たる目的である。

まずは「元町」と「元町地車」について触れておく。

元町は、木小中町と本町が統合した町である。北に上市、南に西之町の間にある濱街道に隣接する町であり、今日の行政上の本町、神明町、東港町が属する町である。

大正四年（一九一五）の田中町と上之町のカチアイから生じた大喧嘩の事後処理として集められた町名の中に本町と木小中町がある。この二町の町名は現在の元町と重なり、前記大正四年以降は祭り自体が一時衰退したようであり、本町地車は「堺住吉大佐」（堺市の大工）に下取りに出されている。

三年の空白を余儀なくされ、大正八年頃から次第に地車祭りの復活の兆しが現われ、宮本町、上市、木小中町、出屋敷町、西之町の各地車が前記堺住吉大佐により修復作業が行われている。そして、大正九年に先代西之町が大佐により先代地車が新調されている。

昭和四年の時点で元町は存在していて、同年の「第五回青年団陸上競技大会」で元町が優勝した」（大津町志）とあり、大正四年（一九一五）大津村から大津町になり、行政区域の名称として「区」がつくられ「元町区」ができ、区長が推薦されている。しかし、住民表示は、下條大津〇〇番地であった。恐らく、初代元町地車（写真一）新調は、この行政区域を大きくするという流れに乗って新調されたと考えられる。

以前より大津町の地車は、当時のブランドであった

写真一

写真五

写真六

季明け、三年後の平成十七年、堺市大東地車新調では初めて石面土呂幕「栗津合戦　巴御前の勇姿」を刻む。平成十九年、堺市八田南之町地車、平成二十二年、熊取町小垣内地車、平成二十四年、岸和田市上松地車、平成二十九年、泉大津市豊中地車と四台の地車の左面土呂幕を手掛けた後、令和元年に地元泉大津市に於いて「彫健」として独立する。

今回元町地車の「鬼熊」を手掛けるが、平成二十八年新調の伴林地車の「鬼板」一丁が初めて手掛けた作品（鬼熊）ということで、今回が二回目となることもあり鬼熊を手掛けることについて「プレッシャーですけど、地元ですから他の人が彫るのでしたらさせていただきたい」と語り、地元元町では青年団団長、梃子長を経て令和五年度に若頭会会長を務めている。

令和六年五月九日、ベニヤ板に描かれた鬼熊の下絵が出来上り、再検討の後、再度先代地車の大屋根根正面の画像を下に描きおすという念の入れようでの作事が始まる。

六月十四日からまずは大屋根正面から手掛ける。縦髪部分の回りをドリルで落とす作業から始められ、「厚みがあるので結構大変でした」と語り、左右の口と鼻の辺りから鑿を入れて彫っていく作業から始まる。材料の前にはベニヤに貼られたトレーシングペーパーに描かれた下絵（写真六）が貼られていた。下絵の大きさは、横一〇〇cm、縦四二・二cmで、横には現状の大屋根正面の現物が置かれていて、大きさは、横九七・二cm、縦四二・二cmあった。横幅が今回の方が約二・七cm大きいことになる。

六月二十二日（写真七）、彫り始めてから七日目"荒彫四割位の仕上がりということで"堀師は、「今の地車を新調した時は確か小学五年生位やったと思いませんでした。こうして元町の鬼熊を彫ることは思いませんでした。今回は、今の分と比べて手と口の間が狭いので鑿が入りにくく彫りにくいですが、もう少し落としていったら彫りやすくなると思います。木は柔らかくもなく硬くもなくこんなもんです」と語り、左右を対称にしなければならないので、左右に目を向けながら耳の辺りの荒彫を手掛けていた。今回の作事は、二丁を一度に荒彫するのではなく一丁を仕上げてから二丁目に取り掛かるという。

六月二十七日、顔の部分の荒彫が大分仕上がっていた。六月中に荒彫が終え、七月には仕上げに掛かるということであったが、七月には入り「西之町の正面拝懸魚の出仕事で、四日程工務店に行っていましたのでいうほど進んでいません。あと歯の部分を彫ったら仕上げに入ります」ということで、七月五日お邪魔した折には、その間が狭い歯の目と渦の間を手掛けていたが、その間が狭いため鑿が入りにくく彫りに手間が掛かっている様子であった。

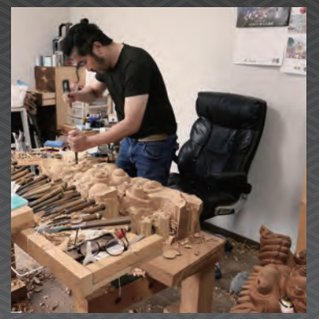
七月十三日、この日は歯の部分を残して仕上げながら刻みを行なう作業、上部縦髪部分の刻みは仕上がっていた。「今は、残業しています。八時までですが、もう少ししたらもっと残業しなければいけません」ということで、この日で丸一ケ月を経過していた。同二十日には、左手部分の仕上げは終えていた。右手部分の仕上げを、二十六日には表部分は仕上がり、裏面左側の渦を彫っていた。七月末には正面は仕上がり、大屋根後面に取り掛かるということで、七月三十一日に正面「鬼熊」が仕上がる。

八月二日に大屋根後面に取り掛かる。初日は、正面と同じように固りをドリルで落とす作業から始まる。二日目から彫り始め、低い所から順番に落としていくので左の縦髪（下から四番目）から内の渦へと順番に落として彫り進めていく。八月十日、約一週間経つと顔部分が浮き上がるように現れてきて荒彫りが進められていた。「顔部分の左から彫り始めるのは何か意味があるのですか？」と尋ねると「別に意味はありませんが、昔から左から彫っていきますので」という。先に彫った正面の上げ下げを確認しながら彫った部分は、墨が消えるのでトレーシングペーパーに描かれた下絵を見て再度木に描くという作業を繰り返し彫り進めていく。

八月十六日、お盆中ではあるが後面の真ん中より右部分を手掛けていた。

八月二十四日、ほぼ荒彫が仕上がり、裏面も終えていた。この日は「歯の部分を手掛ける。」九月八日の岸和田の試験曳き位までには仕上げたい。」ということで、八月三十日、後面縦髪の仕上げを作事、鑿の柄の先に頭に付けて下に押し込むように彫っている姿が特に印象深かった。今回の取材を終える。

九月二十一日（土）に株式会社 大下工務店により町に搬入され、十月六日の泉大津市濱八町の試験曳きの午前に入魂式を予定している。箕甲に噛みついた状態がどんな名作になるか、待ちに待ったお披露目となる。


写真七

写真一　先代元町地車
写真二　先代元町地車大屋根
写真三　昭和六十一年制作
写真四　昭和六十一年制作
写真五　平成二十年正面土呂幕「栗津合戦　巴御前の男姿」堀健二師作
写真六　トレーシングペーパー
堀健二師画
写真七　令和六年六月二十二日、正面鬼熊荒彫作事中の堀師

参考文献
昭和七年十一月二十日　大津町志　発行者　河合角太郎
平成二十二年二月二十四日　泉大津濱八町地車
礼讃　著者　花内友樹
平成二十六年十月　泉大津濱八町
平成の大改修　元町記念誌編集委員会
平成二十九年四月二十七日　泉大津市濱八町だんじり祭　著者　若林公平

協力者（敬称略）
元町帳元会
小西正人
株式会社 大下工務店
彫健　堀健二

令和六年八月吉日
高津町住
花内友樹

外壁 屋根 雨漏り防水 相談所
住宅・マンション・工場・倉庫
全丸塗装
TEL:0725-21-5787

株式会社 山崎商店
事務用品 教科書 OA機器
書籍 オフィス家具 印章
〒595-0063
泉大津市本町１番１号
TEL 0725-21-0005

各種イベント・会議 式典etc. 企画運営
AWESOME Planning & Management
株式会社 AWESOME
代表取締役 吉岡 藍
泉大津市二田町2丁目12-32 2F
0725-90-6512 0725-90-6513

はっぴ・たすき 鯉口シャツ チャンチャンコ
オリジナルを作るなら
(株)紺善
〒596-0053
大阪府岸和田市沼町 16-11
tel：072-422-3275
fax：072-439-3234
http://konzen.jp

くるみ餅
ぽんぽんや
泉大津市本町 6-1 TEL 0725-32-0886

コンピューターシステム＆トータルサポート
Groovy
株式会社グルーヴィ
http//www.groovy-osk.co.jp/
本社　〒595-0062
泉大津市田中町 6-5 KANNO ビル２F
TEL 0725-20-4770　FAX 0725-20-4771

家族葬 一般葬 社葬 ご法要
お葬儀の規模・価格
すべてに応じて お見積りいたします
戎（本町）
北助松駅前に
家族葬ホール
OPEN！
お問合せ
泉大津市立総合体育館前
シティホール 泉大津
0120-43-4304

一般貨物自動車運送業
光急便株式会社
チルド・冷凍食品・一般食品・雑貨・その他
大阪府泉大津市河原町 264 番 26
Tel(0725)32-8695 Fax(0725)32-2296

楠本モータース株式会社 SUBARU
〒595-0072 泉大津市松之浜町2-11-6
TEL（0725）22-1113
FAX（0725）22-1116

総合葬儀会館
泉大津メモリアルホール
24時間受付
泉大津市池浦町1丁目17番5号
☎0725-23-4455
セルビスグループ

近畿運輸局長認証工場
二葉モータース
泉大津市本町 5-23
0725-32-1741
車検 泉大津 検索
https://www.shaken28.com

社会福祉法人
泉大津みなと会
みなと本部 就労以降支援・就労継続支援・相談支援
〒595-0054 大阪府泉大津市汐見町85-1
TEL.0725-20-3710/FAX.0725-23-2349
カモメ 生活介護
〒595-0044 大阪府泉大津市河原町2-13
TEL.0725-32-3710/FAX.0725-32-2349
青天 グループホーム
〒596-0052 大阪府岸和田市並松町24-14
凪 グループホーム・短期入所
〒596-0035 大阪府泉大津市式内町９－６

売買 賃貸 注文建築
「オオサノ」の不動産の事は…
株式会社 南大阪住販
地元泉大津で皆さまのご支援賜り創業40年以上!!
〒595-0013 泉大津市宮町10番12号(条南小学校北西角)
TEL:0725-22-0077 Webで物件掲載中！

テント・シート帆布製品全般
泉州シート株式会社
Sensyu Sheet Co.,ltd
〒595-0011 泉大津市曽根町1-10-50
TEL 0725-21-2502
FAX 0725-21-9886

上田美容研究所
Liefhair × Lieflash
〒595-0061 泉大津市春日町 8-3 Hour.9:00~19:00
Holiday.Mon&2nd 3rd Tue　0725-32-1170

Canadian English Classroom
CEC
カナダ英語教室
ラーニング
有限会社 LearnEng
〒5950052　泉大津市西港町 8-10
TEL 090-4649-9476

だんじり衣裳専門店
サヤ柄チャンチャンコ（ひも・ボタン）
長袖（ひも・ボタン）タイプもあります。
肌感触パツグンの急汗速乾生地も数多く
豊富に揃えております。
倉敷屋・丸五
カ王・日進足袋
立体インソール採用で、横ブレ防止！
ファスナー仕様なので、フィット感 UP!
岸和田市加守町 3-5-21
http://www.negoro-web.com
0120-80-2675
ファスナー
ねごろ